



平成28年2月5日

各報道機関 御中

第12回山梨大学教職大学院「教育実践フォーラム」の開催について

山梨大学教職大学院は、平成22年度の設置から6年目を迎えました。この間、教育現場が抱える諸課題に対応できるより実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成と現職教員を対象に地域や学校において指導的・中核的な役割を果たし得るスクールリーダーの養成を行って参りました。

この実績を踏まえ、このたび本教職大学院では、「児童生徒の健やかな成長を支える学校とは」をテーマに教育実践フォーラムを下記により開催し、教育現場への情報提供を行うことと。大学院生による研究発表及び講演は、喫緊の課題である学力向上やいじめ不登校対策の参考になるものと考えております。

つきましては、イベント情報提供等の番組コーナー・紙面等で本フォーラムの開催をお取り上げの上、広くご紹介いただきますとともに、開催日当日の取材について、ご協力を賜りますようお願いいたします。

記

- 日時 平成28年2月13日(土) 10:00~17:00
- 会場 山梨大学甲府西キャンパス Y号館及びN号館
- 内容 (1) 院生による研究発表 Y号館1階(Y-11、12、14教室)
【午前の部】10:00~11:35 【午後の部】13:10~15:10
(2) 講演 15:30~17:00 N号館1階(N-11教室)
【演題】「多様化する不登校の心理と支援」
【講師】伊藤美奈子先生(奈良女子大学大学院教授)
- 主催 山梨大学教職大学院(大学院教育学研究科教育実践創成専攻)
- 後援 山梨県、甲府市、南アルプス市、甲斐市、中央市、昭和町、韮崎市、北杜市、
山梨市、甲州市、富士川町、富士河口湖町、上野原市 各教育委員会
- その他 事前の申込がなくてもご参加いただけますが、準備の都合上、電子メール、電話による事前申込を受け付けております。お手数をおかけいたしますが、氏名及び電話番号を下記宛てご連絡ください。
- ・Eメール: edu-hs@yamanashi.ac.jp
 - ・電話: 055-220-8107 山梨大学教育人間科学域支援課

<問い合わせ先>

〒400-8510 甲府市武田4-4-37

国立大学法人 山梨大学

教育人間科学域支援課総務グループ 奥秋

TEL:055-220-8107 FAX:055-220-8791

第12回 山梨大学教職大学院 教育実践フォーラム

児童生徒の健やかな成長を支える学校とは

日時 2016年2月13日(土) 10:00~17:00

会場 山梨大学(甲府西キャンパス)

〈教職大学院生 研究発表〉 Y号館(総合研究棟)1階 Y-11, Y-12, Y-14 教室
 午前の部 10:00~11:35 (受付開始 9:30)
 午後の部 13:10~15:10 (受付開始 12:45)
 〈講演〉 N号館1階 N-11 教室 15:30~17:00 (受付開始 15:00)

演題 「多様化する不登校の心理と支援」

講師 伊藤美奈子 先生 (奈良女子大学大学院教授)

- 【主催】 山梨大学教職大学院
 【後援】 山梨県教育委員会 甲府市教育委員会
 南アルプス市教育委員会 甲斐市教育委員会
 中央市教育委員会 昭和町教育委員会
 韮崎市教育委員会 北杜市教育委員会
 山梨市教育委員会 甲州市教育委員会
 富士川町教育委員会 富士河口湖町教育委員会
 上野原市教育委員会
 【対象者】 どなたでも無料で参加できます。(当日参加可)

山梨大学建物配置図(甲府西キャンパス)



【バス】JR甲府駅北口から「武田神社」又は「積翠寺」行きに乗車、「山梨大学」下車(約5分) 【徒歩】JR甲府駅北口から武田通りを北上(約15分)

問い合わせ先 山梨大学教育人間科学域支援課 TEL:055-220-8107 E-mail:edu-hs@yamanashi.ac.jp

第12回 山梨大学教職大学院 教育実践フォーラム

教職大学院生 研究発表

2016年2月13日(土) 山梨大学(甲府西キャンパス) Y号館(総合研究棟)1階

開始時刻	第1会場 (Y-11 教室)	第2会場 (Y-12 教室)	第3会場 (Y-14 教室)
10:00	梶原 裕一郎 (*小) 問題解決型学習の課題把握・振り返りに焦点をあてた授業改善—算数科におけるノート記述の分析を通して—	齊藤 賢一 (*小) 科学的な思考・表現を育てるOPPシート活用の研究—見直し, 振り返りの充実を通して—	窪田 幸彦 (*高) 「探究的解説」に基づく高等学校地理授業—ワークシートによる思考の可視化と知識の構造化を通して—
10:25	長野 楓 「拡大図・縮図」における概念理解と作図に関する児童の困難性の分析	土屋 晃喜 子どもによる課題解決のための理科学習指導の方略—観察・実験と話し合いを中心として—	石坂 隆至 (*高) 知識習得とアクティブラーニングを両立した世界史授業—情報機器の効果的な活用を通じて—
10:50	桐山 翔太 算数科「速さ」における意味理解を深める授業づくり—ユニバーサルデザインの視点から—	原田 佑一 小学校理科における授業改善—児童の「疑問」を活かすためのOPPシートの活用—	日向 千恵 小学校社会科における「考えながら理解する」授業展開の工夫—社会的事象の関連付けを中心に—
11:15	清水 光 (*小) 算数科における授業改善の試み—割合問題の解決と数直線図指導の関わり—	原田 弘昭 (*小) 小学校音楽科における積み上げを図るための具体的方策—音楽づくりと鑑賞の関連を図った題材を通して—	内藤 成子 (*小) 小学校社会科における見学・観察を取り入れた問題解決的学習のデザイン
(休憩)			
13:10	金丸 哲平 理解を確かなものにする算数授業—重さの「量感」の育成に着目した授業実践を通して—	市川 真寛 高校化学における実感の伴った理解を図る授業の在り方—生徒の興味・関心を高める例示を取り入れた実践をもとに—	杉田 吏 グループ活動による資料読解を通して新たな気づきを得る中学校歴史授業
13:35	志村 克人 (*小) 「目標と学習と評価の一体化」を目指した授業実践—協働学習(『学び合い』)を通して—	八巻 森平 言語活動を通して理解の深化を図る物理授業	清水 ゆき菜 書いて伝える力を育む授業—小学校第1学年の書く活動の実態を踏まえて—
14:00	山下 節子 (*小) しなやかな心の育て方—レジリエンス教育の活用—	小田 雄仁 (*高) 落語を取り入れた授業の効果—インタラクティブな関係性を目指した取り組み—	田中 和美 (*小) 表現・対話の基礎力を培う国語科授業—遊びの要素を取り入れた日常的活動を下地として—
14:25	上杉 春樹 (*小) 児童の対人関係における問題解決能力を養う試み—学級活動の充実を通して—	上條 俊之 「できる・わかる・かかわる」を目指す体育科の授業づくり—言葉がけによるフィードバック活動を通して—	武井 武 (*中) これからの中学校において「伝統的な言語文化」の学習指導に何が必要か—小中高のつながりを視野に入れて—
14:50	小林 恵子 (*小) 学びにおけるプロセスの意識化を促す日々のはたらきかけ—高学年児童の自己効力感と自律的学習に焦点を当てて—	田中 亮 (*小) 「運動の日常化」を焦点とした小学校体育的活動の実践プランの構築—運動遊び, 体育科, そして特別活動—	上杉 尚子 (*高) 生徒に興味をもたせ学習に向かわせる, 効果的な指導の在り方—高校現場での実践を通して—

※*印の発表者は現職教員の院生です。小・中・高は校種を表しています。

※自由に会場(教室)を移動してご関心のある発表をご覧ください。